

大崎町協力隊通信 vol.27

O-en(オーエン)は、旧大崎幼稚園舎を活用した「みんなの活動を応援する場」というコンセプトのコミュニティスペースです！



★ こどもO-enくらす ★

こどもO-enくらすが始まって、3か月がたちます。

現在、36名が登録をしていて、毎回20名前後（多い時で30名近く！）の子どもたちがにぎやかに学習に励んでいます。

3か月もたてば、様々な出来事が起こります。今回は、その一部を紹介します！



教室に迷い込んだインコを見る子どもたち

『迷いインコ騒動事件』

教室に来て窓を開けていると…「ん？黄色い鳥…？」窓に取り付けられた柵に1羽の黄色いインコがとまっていた。私が近づいても逃げる様子はない。にぎやかな子どもたちが教室にやってくる様子はない。私は『ハナコ』と勝手に名付けたが、子どもたちから「ダサイ」とのクレームにあい、私の名前の『ふみな』から『フミコ』と名前が改められた。

子どもたちもフミコが存在が気になる…。集中できない。すると、なんとフミコが子どもの学習している机に飛んできた！騒ぎ出す子どもたち。フミコもつら

れて騒ぎ出す。インコ騒動だ。「捕まえるぞ!!」息巻く子どもたち。あの手この手で工夫しながら箱を作り、ああでもない、こうでもない、と言いながら協力して捕まえようとしている。何度も教室の外に出て行くが、なぜかまた戻ってきて教室から離れようとしないうるようだ。

この騒動に終止符を打とうと、私も捕獲作戦に乗り出した。…が、なかなか捕まえない。もう学習どころではない。騒動の中、時間も過ぎていき、帰っていく子どもたち。悔しそうに私に、「先生、必ずフミコ捕まえてね!!」と想いを託して。その子どもたちの想いを無駄にすることはできない。

子どもたちもまばらになった頃、教室の中を飛び回るフミコが壁にとまった。そのとき、サッと素早く手を伸ばした。すると、意外とあっさり私の手にフミコが収まった。子どもたちから歓声が上がった。子どもたちが作ったフミコ用の箱に入れた。

「先生、フミコみんなで飼おうよ！お世話するから！」と言う子どもたち。「う～ん、考えておくね」と答えたが、私は悩んだ。きっとこのフミコはどこかで飼われていたに違いない。でもどこから飛んできたかはわからない。逃がしてしまえば、ガラスに襲われてしまうかもしれない。ここで飼おうか。

でも待てよ。飼い主が探していたら…。フミコにとっての幸せは…。子どもたちの想いは…。いろんな考えが駆け巡った。子どもたちは全員帰宅した。

一人残った教室で、フミコの入った箱を揺らさないように持ちながら悩んだ。全ての鍵を閉め、駐車場に向かった。そして、フミコの入った箱を開けた。フミコはじっとしていた。騒動で疲れたのだろう。フミコをそっと掴んだ。手のひらに乗せて、「ほら、フミコ」と少し揺らした。するとフミコは小雨の中、薄暗くなった空に飛んでいった。

次のこどもO-enくらすのとき、やはり子どもたちに責められた。「ごめんね、きっとまたみんなに会いたくなったら来るんじゃないかな」と答えた。それから毎回、窓を開けるたびに黄色い姿を探す。しかし、まだその姿は見えていない。無事に飼い主のもとへ帰り、幸せに暮らしていることをみんなで願っている。

河瀬